



昔の草津川をわたる様子<草津市蔵>

1

草津マンポをつくる

昔の草津川

上の絵は、昔の草津川^{くさつ}をわたっている様子です。まわりの様子を見てみましょう。



「人のむこう^{がわ}側に家の屋根が見えるね。屋根と同じ高さに川が流れていたのかな。」



「今はその場所に草津マンポとよばれるトンネルがあるんだって。」

どうして草津マンポはつくられたのでしょうか。ふしぎに思ったことや知りたいことを出し合い、調べることになりました。



川のまわりの様子について気づいたことや、人々が屋根とほぼ同じ高さにある川をわたっている理由について話し合おう。

草津マンポは、人々のどのような願いから、つくられたのでしょうか。みんなで話し合ってみましょう。



📍現在の草津マンポの様子 草津1丁目と大路1丁目の間にあるトンネルで「草津マンポ」とよばれています。

📖 マンポ

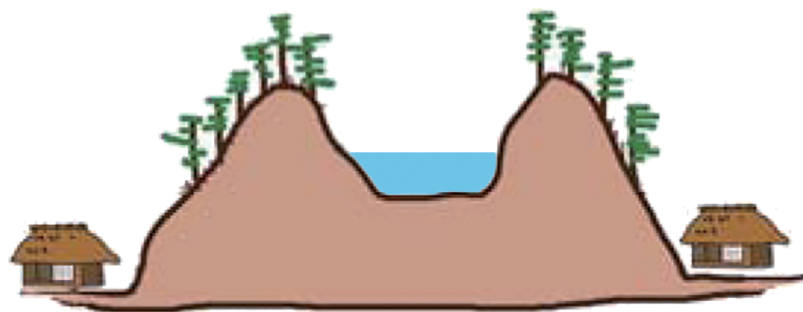
江戸時代、こう山の入り口などをさした方言「まぶ」がトンネルの意味に使われ、なまったものと言われています。

👁️ 気づく

このトンネルがなかったころ、人々はどのようにして川をわたっていたのでしょうか。

マンポがなかったころ

マンポがなかったころ、人々はていぼうを登り下りして、川をわたって町を行き来しなければなりませんでした。10m以上も登るところがあり、重い荷物があるときや馬車、大八車だいはちぐるまでこえるときはたいへんな苦勞くろうをしました。



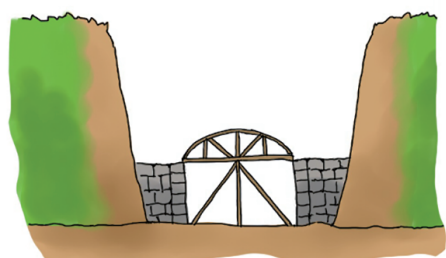
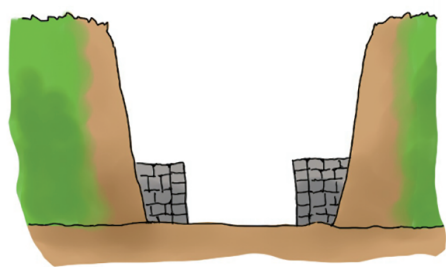
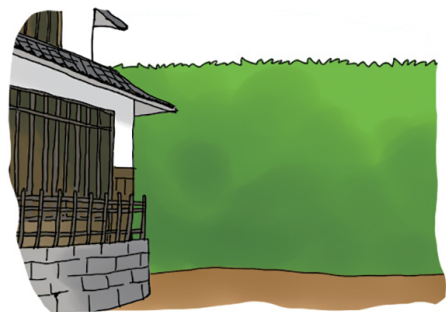
🗨️ 草津マンポができるまで人々はどのような思いをしていたでしょう。当時の人々のくらしや生活の様子を想像しながら話し合おう。



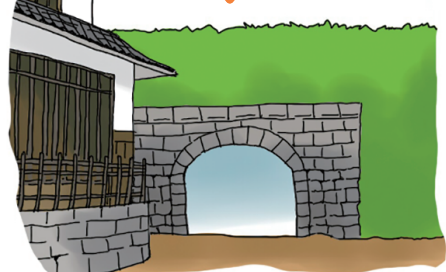
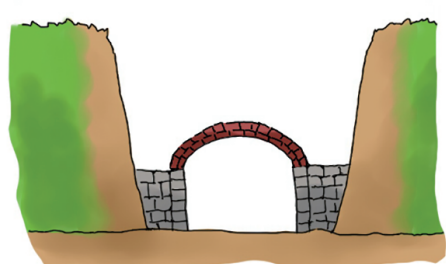
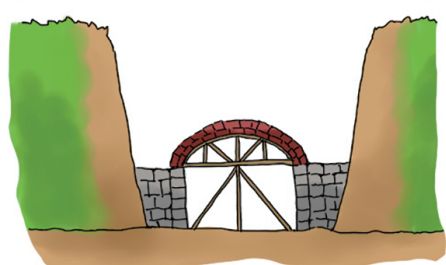
📍天じょう川

📖 天じょう川

草津川は、上流から運ばれてきた土やすなが積み重なって、しだいに川の底そこが高くなりました。大雨のときにはていぼうが切れやすくて、こう水が起きることさえありました。人々は、こう水をふせぐためにていぼうを高くしていきました。そのため、川の底が家の天じょうより高くなり、ていぼうはさらに高くなっていきました。このような川のことを天じょう川と言います。

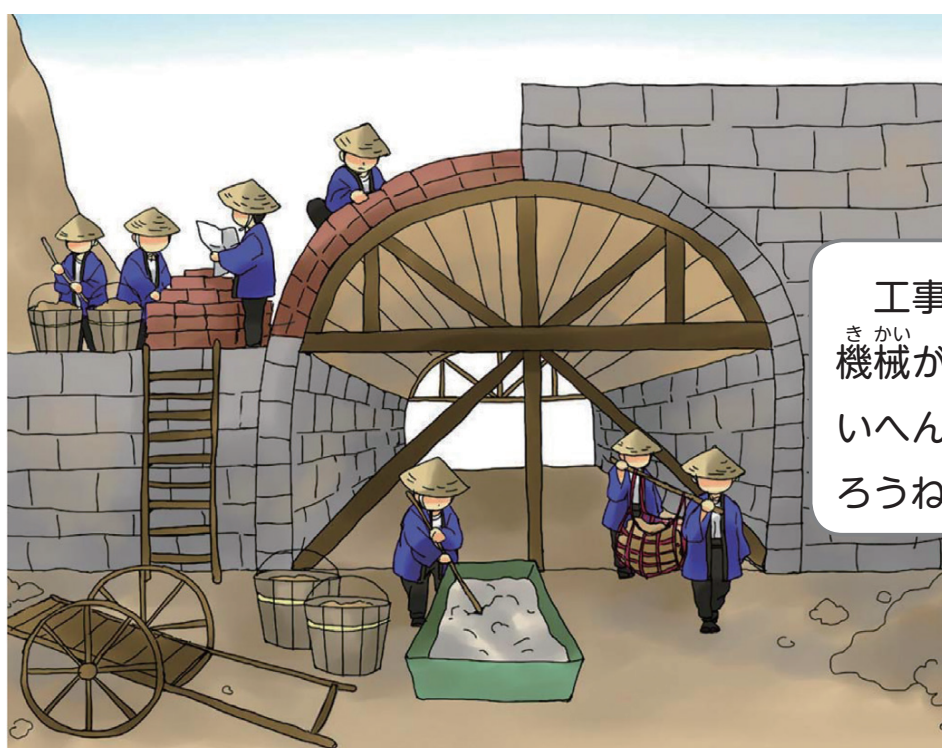


木でアーチわくをつくる



マンポをつくりたい

この苦勞をなんとかしようと、1884 (明治17) 年に町の人々が県令 (知事) に願書を出しました。そのころには、草津駅をつくることが決まっていて、町の発展のためにもぜひトンネルをつくって楽に行き来できるようにしてほしいと願ったのです。



工事は今のようなきかい機械がないので、たいへんな苦勞だったろうね。

↑ 工事の様子そうぞうの想像図

マンポづくりの様子

人々の願ねがいが聞き入れられて、1885 (明治18) 年トンネルの工事が始まりました。工事は、外国人の技師ぎしの指導しどうを受け、レンガと石を使ったアーチ式とよばれる方法ほうで予想以上におずかしい工事であったようです。

調べる

草津マンポはどのようにしてつくられたのでしょうか。



↑本町通りからマンポにかけての風景 ふうけい 大正初期
80ページの写真とくらべてみよう。

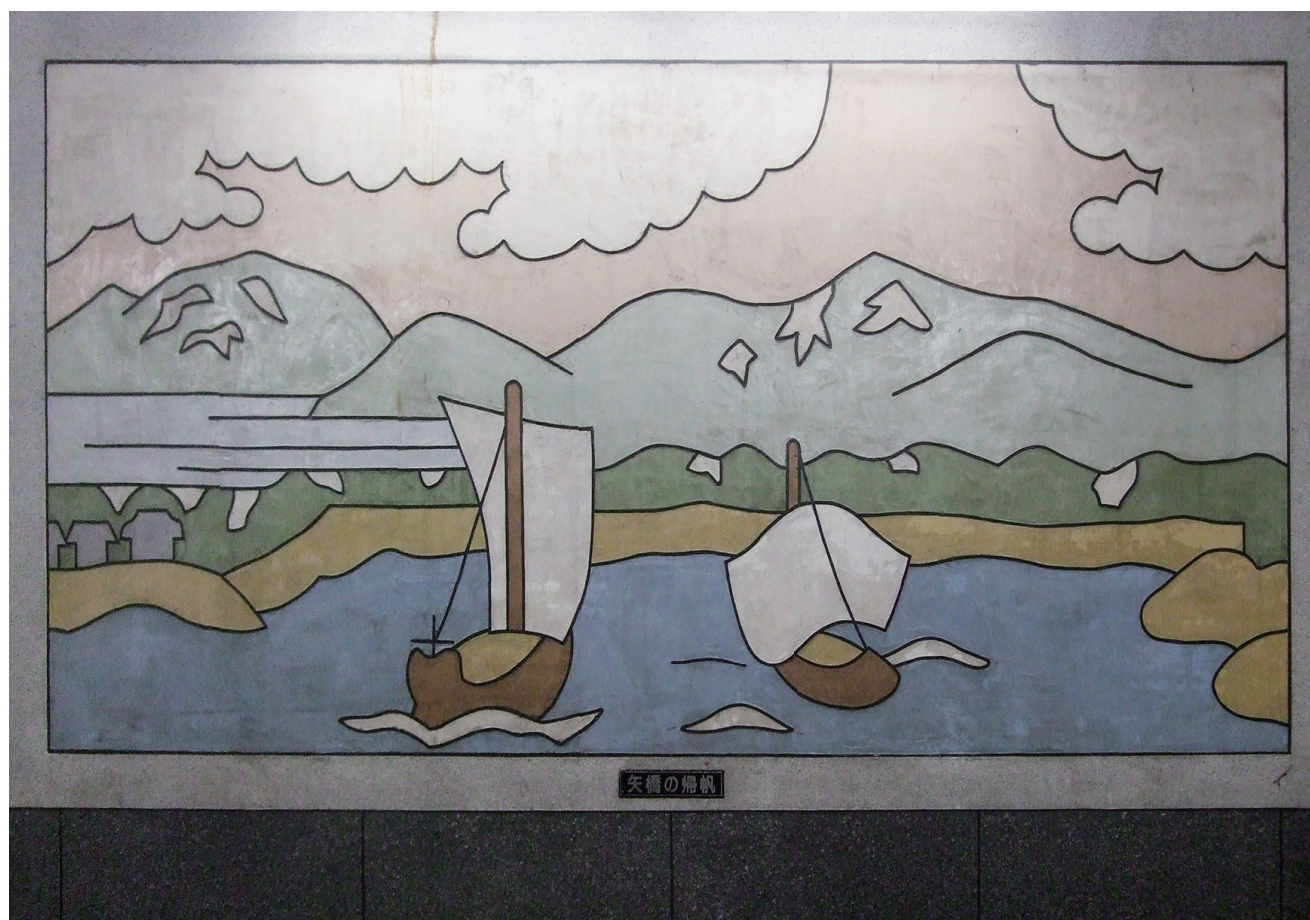
マンポができた

1886（明治19）年に人々が待ちのぞんでいたトンネルが完成し、「草津マンポ」とよばれて親しまれました。マンポの完成によって、おちのい大路井と草津本町がひとつなぎとなり、川ごえをしなくてもトンネルを通って早く行けるようになりました。荷車で重い荷物を運ぶのも楽になり、人々はとても喜びました。3年後には、国鉄東海道線（今のJR琵琶湖線）が開通し、草津駅が開業しました。マンポは草津駅と草津本町方面とを結ぶ道路として多くの人が通行し、たいへんにぎやかになりました。

調べる

草津マンポがつけられたことで人々のくらしは、どのように変わったのでしょうか。

昔の草津の絵があるよ。
見学に行こう。



げんざい
現在の草津マンポにえがかれている絵

いかす

わたしたちのまちの^{はってん}発展
につくした人や地いきの^{れき}歴
史が分かるものを、みんな
でさがしてみましよう。

多くの人が^{りょう}利用するマンポ

その後、マンポは何度も工事が行われました。トンネルのはばが広げられ、自動車と歩行者が通行する道も分けられて、みんなが安全に通行できるようになりました。また、トンネルの中が美しくぬりかえられ、明るくきれいなすがたに^か変わりました。かべには「^{やばせ}矢橋の^{きはん}帰帆」(写真)など昔の^{くさつ}草津の様子がえがかれ、たくさんの人々にますます親しまれるようになりました。このようにして、草津の人々の「町をよりよくしたい」という^{ねが}願いがかない、さらに住みよい町になっていったのです。



1938(昭和13)年，大雨で草津川のていぼうがきれ，馬場町で大きなひ害が出ました。
トロッコを利用して土やすなを運んで，ていぼうを直しています。

すいがい 水害をくり返す草津川

草津川はこれまでに，大雨がふるとていぼうから水があふれ，ていぼうがきれて大きな水害をもたらしてきました。台風でていぼうがきれ，たくさんの家が水につかってしまう大きなひ害を受けたこともありました。草津川の近くに住む人々は，安心してくらせるようにするには，大雨がふっても水があふれたり，ていぼうがきれたりしないようにするしかないと考えました。そして，草津川をつけかえるという方法^{ほう}を考え，県に工事をしてほしいと願い出ました。



1953(昭和28)年の台風13号による水害



豪雨による水害
草津川国道1号付近
1966(昭和41)年



↑草津川のつけかえ

↓草津川の年表

年	できごと
1802 (享和2)	草津川がはんらんし、大こう水がおきる。
1884 (明治17)	まちの人々がマンポをつくる願書を県令(知事)出す。
1885 (明治18)	草津マンポの工事が始まる。
1886 (明治19)	草津マンポが完成する。
1889 (明治22)	東海道本線(JR琵琶湖線)が開通する。
1910 (明治43)	ていぼうにさくらの木が植えられる。
1938 (昭和13)	大雨でていぼうがきれる。
1953 (昭和28)	台風13号による水害がおきる。
1964 (昭和39)	草津マンポのトンネルが広げられる。
1966 (昭和41)	豪雨により水害がおきる。
1971 (昭和46)	草津川のつけかえじゅんぴが始まる。
1982 (昭和57)	つけかえ工事が始まる。

新しい草津川に

県は、水害から町を守りたいという人々の強い願いを受け入れ、国と協力して、工事を始めました。工事は新しい草津川をつくり、そこに水が流れるようにするというものでした。1971(昭和46)年から草津川つけかえ工事のじゅんぴが進められ、1982(昭和57)年にいよいよ始まりました。31年という長い年月をかけ、2002(平成14)年にようやく工事が完成しました。こうして新しい草津川となり、長年にわたる人々の願いがかなったのです。

市のたんだんの方の話



天じょう川として有名だった草津川のあと地は、公園やすてきなお店ができて、人々がにぎわいとうるおいを感じるような草津のシンボルとなる空間にすがたを変えました。

また、災害のときには近くに住む人々がひなんする場所として、人々の安全を守ることに役立つ場所となります。

年	できごと
2002 (平成14)	新草津川が完成する。
2008 (平成20)	旧草津川のていぼうの一部が切りくずされ新しい道路が開通する。
2011 (平成23)	草津川あと地利用基本構想(もとになる計画)がまとまる。
2014 (平成26)	草津川あと地の一部で整備工事が始まる。
2017 (平成29)	草津川のあと地の一部が公園として開園する。



草津川あと地公園のさくらなみ木



草津川あと地公園にある遊具



草津川あと地公園にあるしせつ

草津川のこれから

新しい草津川ができたことで、天じょう川だった旧草津川は、川としての役目を終え、草津市の真ん中に広大な草津川のあと地がのこされました。

ていぼうのさくらなみ木は市民のいこいの場として親しまれていますが、公園や観光ちゅう車場としても利用されています。また、ていぼうの一部は切り取られて新しく通りやすい道路として生まれ変わっています。

これからも草津川のあと地はいろいろなことに利用されていくことでしょう。



草津川あと地公園の観光用ちゅう車場



天じょう川を切り取ってできた道路

草津川のあと地は、どんなことに利用できるか、話し合おう。